

## 謝辞

本論文の作成にあたり、多くの方の温かいご支援、ご協力を賜りました。

大学入学以来の恩師である齋藤美穂先生には、永きに亘って心強いお力添えを頂いて参りました。快活で精力的な先生のお姿にいつも励まされ、また身が引き締まる思いでもおりました。簡単な言葉では到底表し得ませんが、深く、厚く、感謝申し上げる次第です。先生にお会いできたことの幸運を改めて思います。

お忙しい中、副査として査読を引き受けて下さいました中島義明先生、野嶋栄一郎先生には多くの貴重な助言を寄せて頂きました。ご指摘の一つ一つを噛み締め、研究者としての意識も新たにしたところでございます。先生方からご教導賜りましたことを嬉しく思うばかりです。心より感謝申し上げます。

論文を書き終える今、振り返れば齋藤ゼミに守られ、育まれてここに至っていることがただただ思われます。良き友、良き先輩、良き後輩に恵まれ、素晴らしい人的環境の中で研究を進めて参ることができました。ここに深く感謝し、今後の齋藤ゼミの益々のご発展を祈念致します。

また、本論文は実験の協力者の方々なくしては存在し得ませんでした。多くの方々が快く依頼に応じて下さったことを振り返り、今改めてその有難さを痛感します。

最後に、柔らかに、そして穏やかに支え続けてくれた家族に感謝の意を捧げ、結びの辞と致します。

2005年1月

山田 雅子